

西東京市

教育計画策定のためのアンケート調査

報告書

(概要版)

目次

I	調査の概要	1
II	調査結果概要	2
1	学校の楽しさ、学校で楽しいところ（小学生・中学生・青少年）	2
2	学校で困っていること（小学生・中学生）	4
3	通っている塾や習い事（小学生・中学生）	5
4	学校以外の過ごし方（小学生・中学生）	6
5	近所の人とのあいさつ（小学生・中学生）	9
6	自分に自信のもてる場所（小学生・中学生）	9
7	家族と話す内容（小学生・中学生）	10
8	相談相手の有無、相談できる相手（小学生・中学生）	11
9	携帯電話やパソコンの利用状況（小学生・中学生・青少年）	13
10	学習や活動の内容（一般市民・青少年）	15
11	生涯学習を行うにあたって困っている点（一般市民・青少年）	17
12	西東京市の学習環境（一般市民・青少年）	18
13	公民館の利用状況（一般市民・青少年）	19
14	図書館の利用状況（一般市民・青少年）	21
15	生涯学習に関して知りたい情報（一般市民）	23
16	地域・社会活動への参加意向（一般市民・青少年）	24
17	小学校・中学校で教えることで重要なこと（一般市民・青少年）	25
18	望ましい小学校・中学校の教師像（一般市民・青少年）	26
19	学校や先生に望むこと（小学生・中学生）	27
20	学校と家庭の役割（一般市民）	28
21	いじめや不登校防止のために必要な対策（一般市民・青少年）	29

平成 30 年 3 月

西東京市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

次期「西東京市教育計画（計画期間：平成 31（2019）年度～平成 35（2023）年度）」を策定するにあたって、市民の教育に関する考えや意見を聞き、調査結果を計画策定を進める上での基礎資料として活用するために調査を実施しました。

2 調査対象

小学生調査：全市立小学校の 4 年生及び 6 年生（各学年 1 クラス）

中学生調査：全市立中学校の 2 年生（学校規模に応じて 3～4 クラス）

青少年調査：市内にお住まいの平成 9 年 9 月 3 日～平成 14 年 4 月 1 日生まれの方

一般市民調査：市内にお住まいの 20 歳以上の方

3 調査期間

平成 29 年 10 月 17 日（火）から平成 29 年 11 月 7 日（火）まで

4 調査方法

小学生・中学生調査：学校を通じて一斉配布・一斉回収

青少年・一般市民調査：郵送による配布・回収

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率	回収数
小学生調査	1,260 通	1,168 通	92.7%	1,170 通
中学生調査	1,159 通	1,093 通	94.3%	1,093 通
青少年調査	400 通	119 通	29.8%	1,368 通
一般市民調査	3,000 通	1,246 通	41.5%	

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な質問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答割合の合計は 100%になりません。

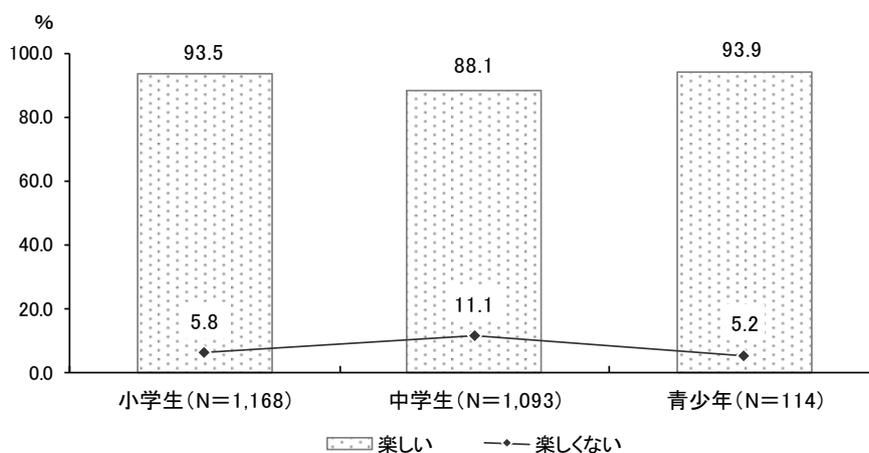
Ⅱ 調査結果概要

1 学校の楽しさ、学校で楽しいところ（小学生・中学生・青少年^(※)）

学校を楽しいと思う児童・生徒の割合は、小学生 93.5%、中学生 88.1%、青少年 93.9%となっており、9割前後で推移しています。

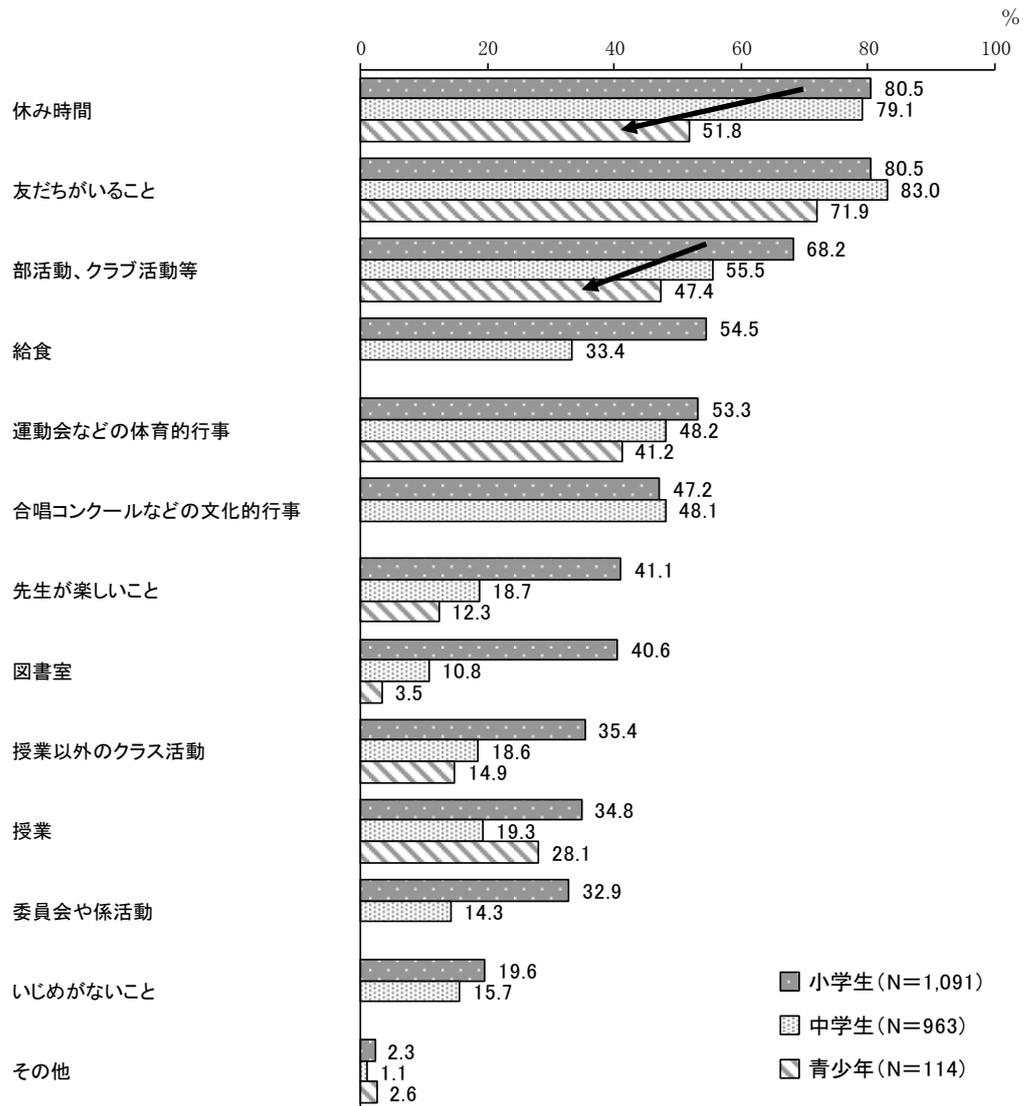
学校で楽しいところは、「休み時間」、「友だちがいること」、「部活動、クラブ活動等」、「給食」、「運動会などの体育的行事」、「合唱コンクールなどの文化的行事」が上位にあげられています。「休み時間」、「部活動、クラブ活動等」と回答する割合は学年が上がるにつれて低くなっています。

【学校の楽しさ】



※楽しい=「とても楽しい」+「まあまあ楽しい」、楽しくない=「楽しくない」+「あまり楽しくない」
※青少年調査のうち、「高校生」、「短期大学生・高等専門学校生」、「専門学校生」、「大学生」からの回答を集計しました。

【学校で楽しいところ】



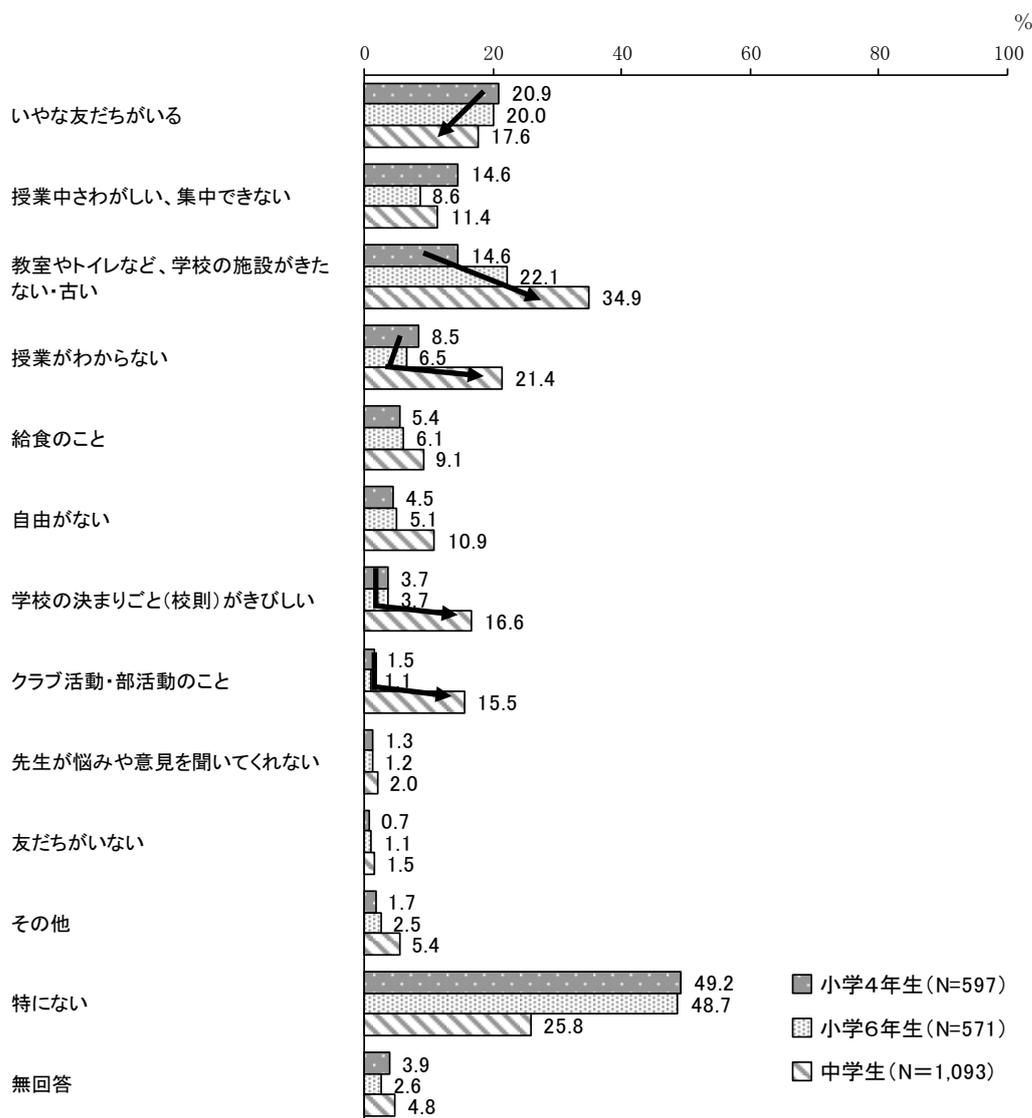
※複数回答のため、各回答割合 (%) の合計は 100% になりません。

※「給食」、「合唱コンクールなどの文化的行事」、「委員会や係活動」、「いじめがないこと」は小学生及び中学生調査のみの選択肢です。

2 学校で困っていること（小学生・中学生）

学校で困っていることが「特にない」と回答した児童・生徒の割合は、小学4年生 49.2%、小学6年生 48.7%、中学生 25.8%となっており、小学生の約半数、中学生の約7割は何らか困っていることがあると回答しています。

困っていることの上位には、「いやな友だちがいる」、「授業中さわがしい、集中できない」、「教室やトイレなど、学校の施設がきたない・古い」、「授業がわからない」等があげられています。「いやな友だちがいる」と回答する割合は学年が上がるにつれて低くなり、中学生になると「教室やトイレなど、学校の施設がきたない・古い」、「授業がわからない」、「学校の決まりごと（校則）がきびしい」、「クラブ活動・部活動のこと」の割合が高くなっています。



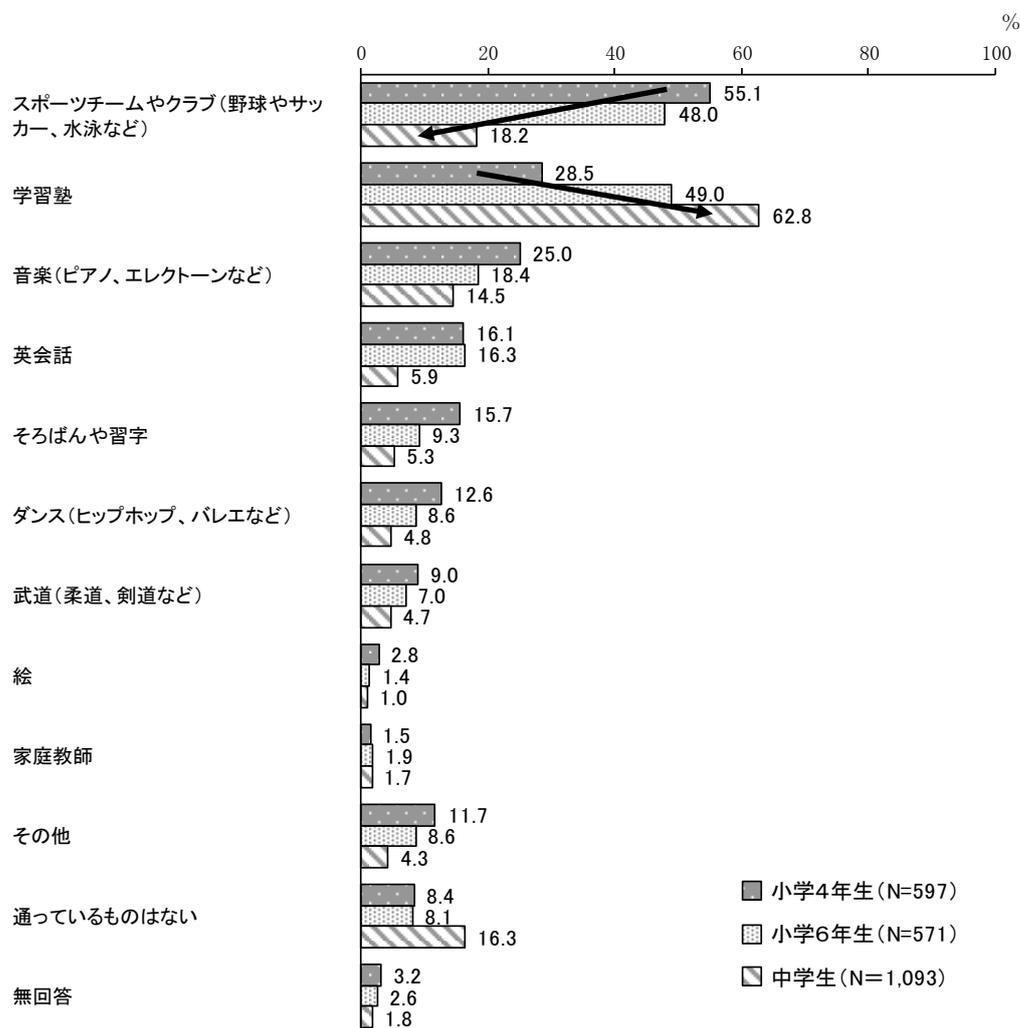
※複数回答のため、各回答割合（%）の合計は100%になりません。

3 通っている塾や習い事（小学生・中学生）

小学生の約9割、中学生の約8割は何らかの習い事に通っています。小学4年生では「スポーツチームやクラブ（野球やサッカー、水泳など）」が最も多いが、学年が上がるにつれて割合は低下し、「学習塾」に通う割合が高くなっています。中学生では62.8%が「学習塾」に通っていると回答しています。

	小学4年生(N=597)	小学6年生(N=571)	中学生(N=1,093)
習い事をしている割合	88.4%	89.3%	81.9%

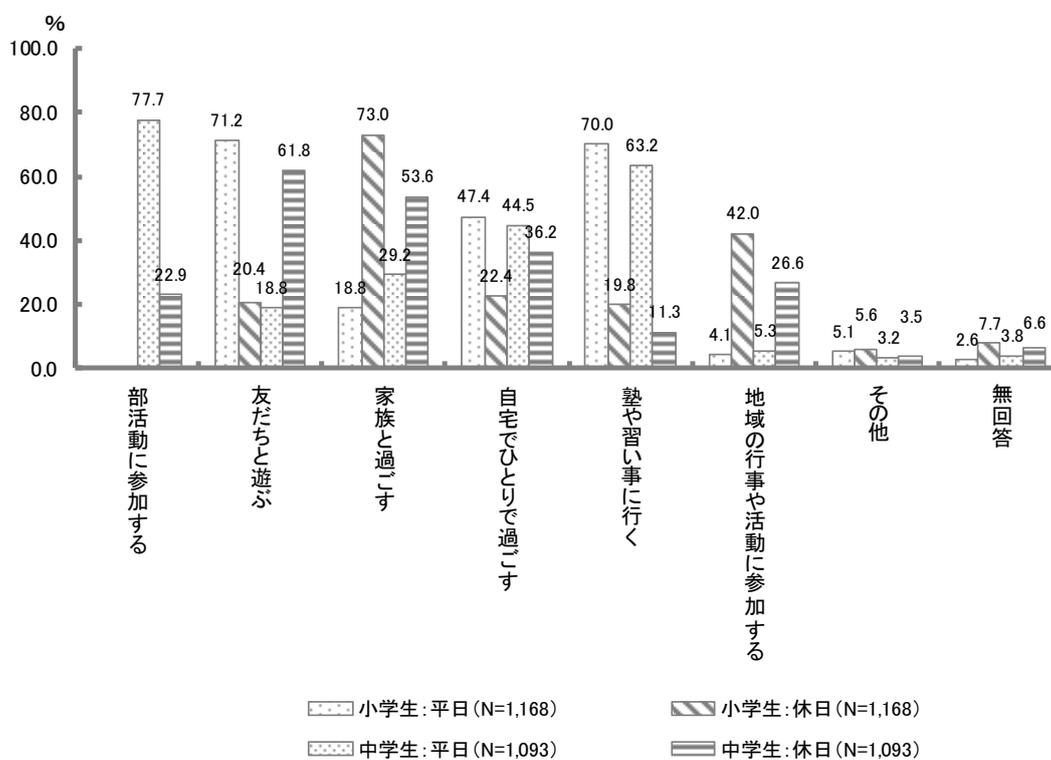
※「習い事をしている割合」は、「特に通っているものはない」と「無回答」を除いた割合。



※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%になりません。

4 学校以外の過ごし方（小学生・中学生）

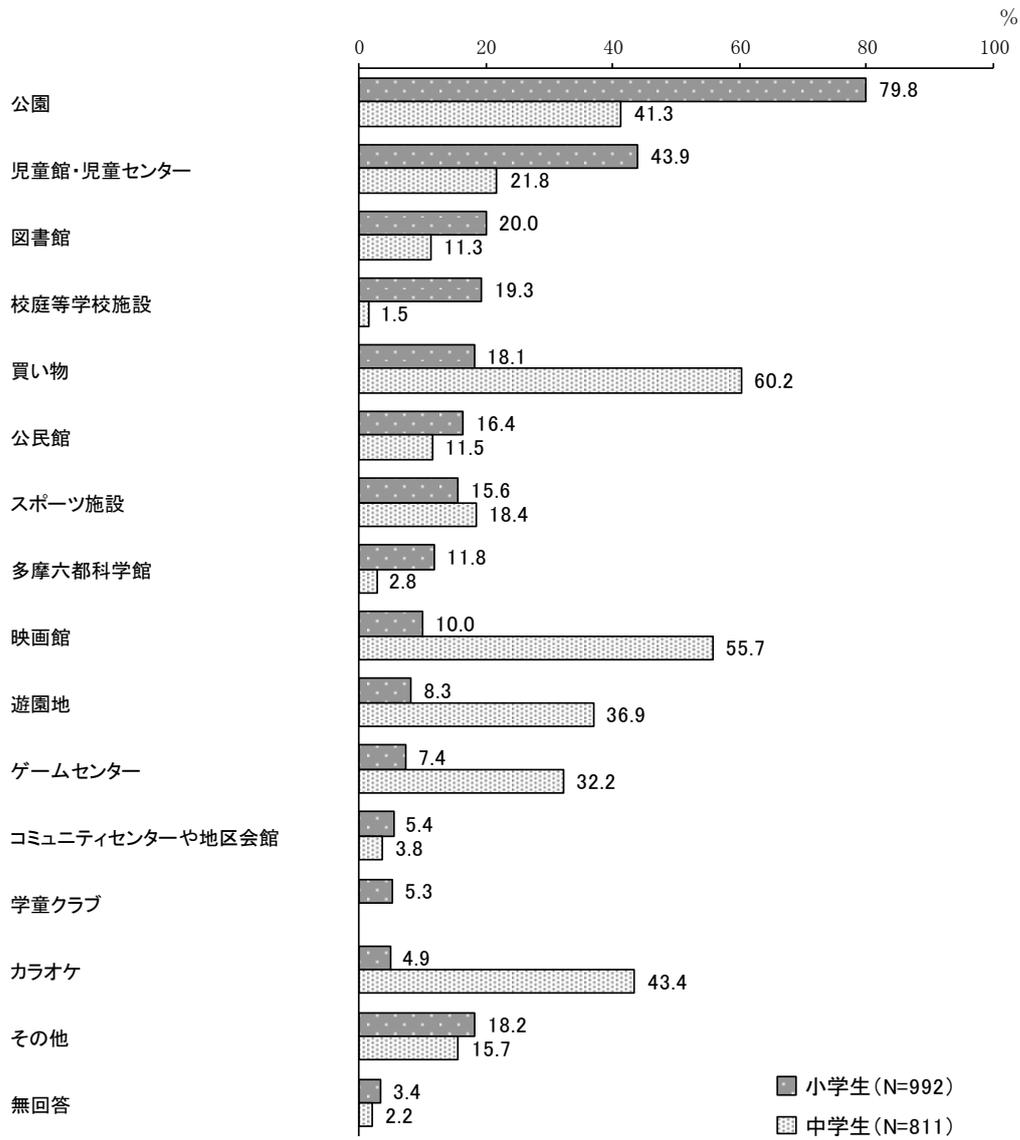
平日の学校以外の過ごし方は、小学生では「友だちと遊ぶ」、「塾や習い事に行く」が多く、中学生では「部活動に参加する」、「塾や習い事に行く」が多くなっています。休日の過ごし方は、小学生では「家族と過ごす」、中学生では「友だちと遊ぶ」、「家族と過ごす」が多くなっています。



※複数回答のため、各回答割合（％）の合計は100%になりません。

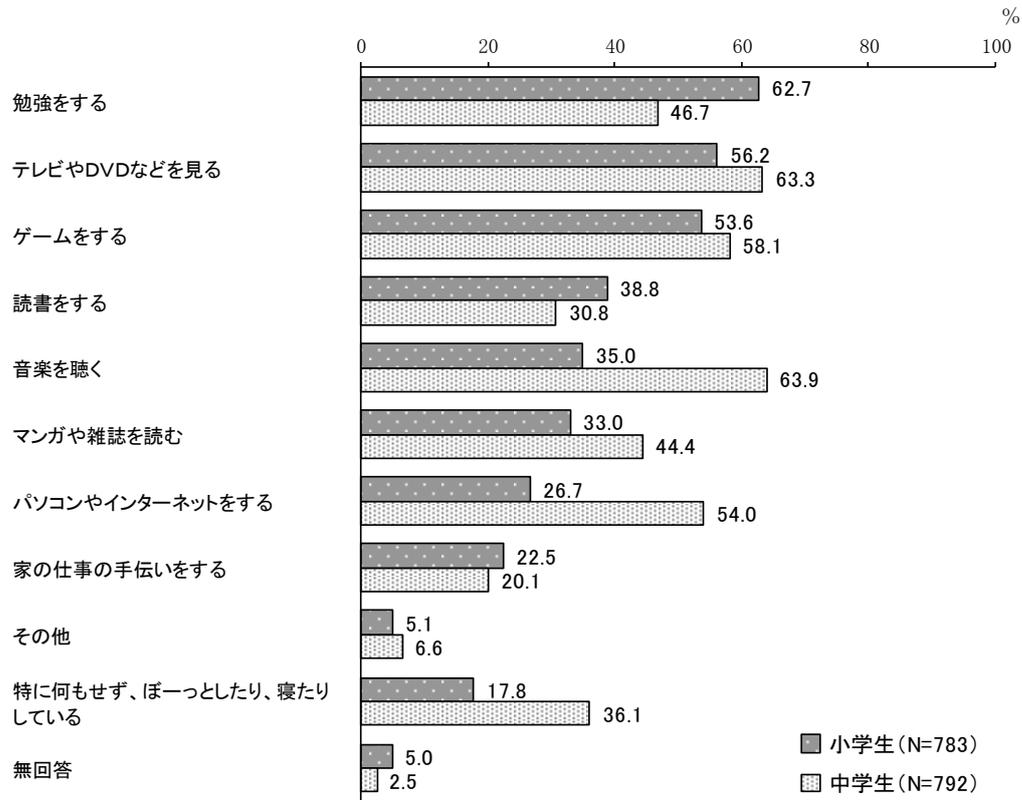
※「部活動に参加する」は中学生調査のみの選択肢です。

【友だちと外出するところ】



※複数回答のため、各回答割合（％）の合計は100%になりません。

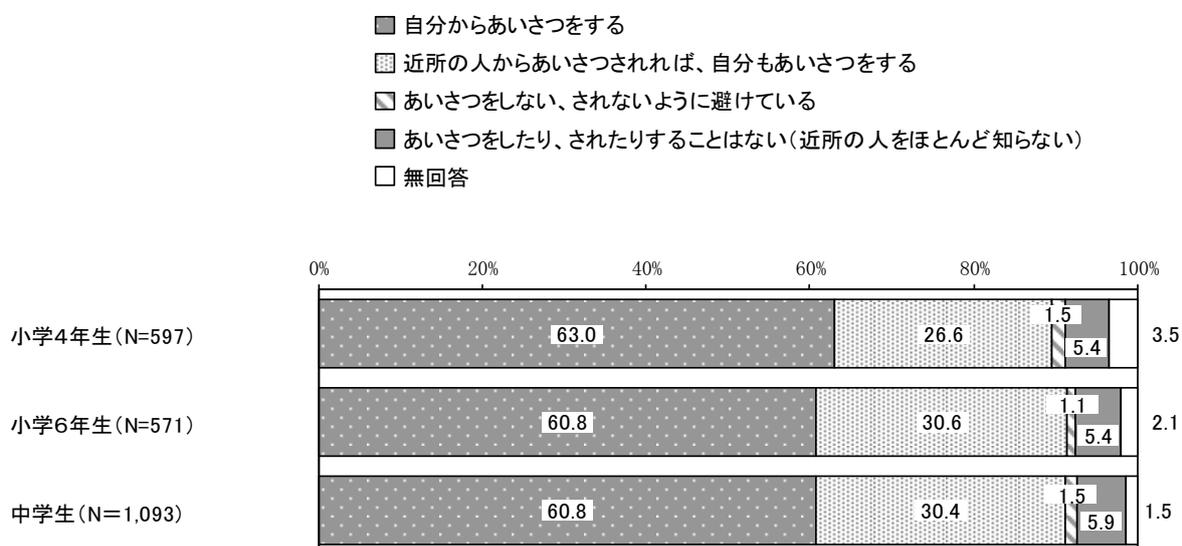
【自宅での過ごし方】



※複数回答のため、各回答割合 (%) の合計は 100% になりません。

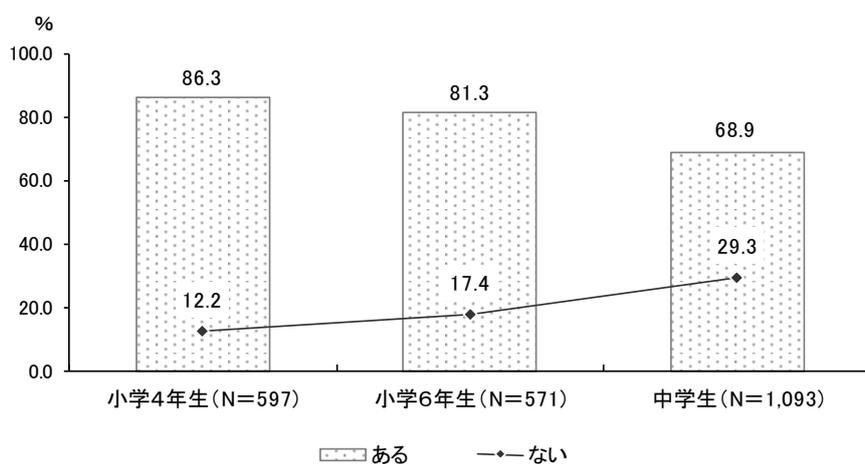
5 近所の人とのあいさつ（小学生・中学生）

小学生、中学生ともに「自分からあいさつをする」が約6割を占めており、「近所の人からあいさつされれば、自分もあいさつをする」も約3割となっています。



6 自分に自信のもてるところ（小学生・中学生）

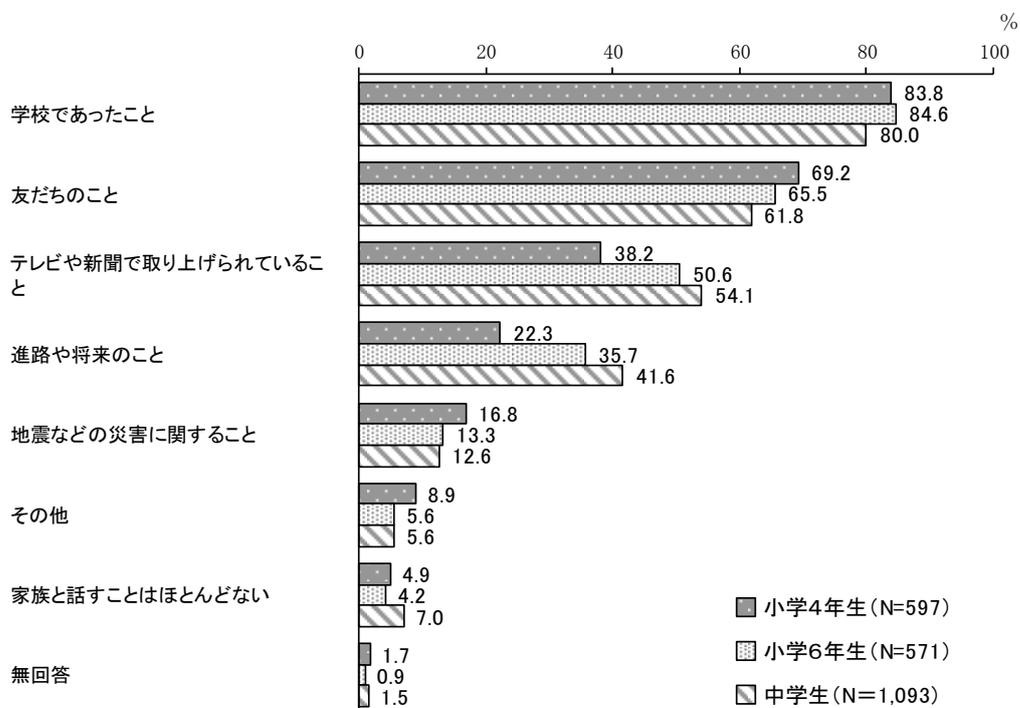
自分に自信のもてるところが「ある」と回答する割合は、学年が上がるにつれて低下しており、中学生では自分に自信のもてるところが「ない」生徒が約3割を占めています。



※「ある」＝「あると思う」＋「どちらかといえばあると思う」
「ない」＝「ないと思う」＋「どちらかといえばないと思う」

7 家族と話す内容（小学生・中学生）

小学生・中学生ともに9割以上は家族と会話をしており、主な内容は「学校であったこと」、「友だちのこと」、「テレビや新聞で取り上げられていること」等となっています。また、中学生になると「家族と話すことはほとんどない」の割合がやや増加しています。

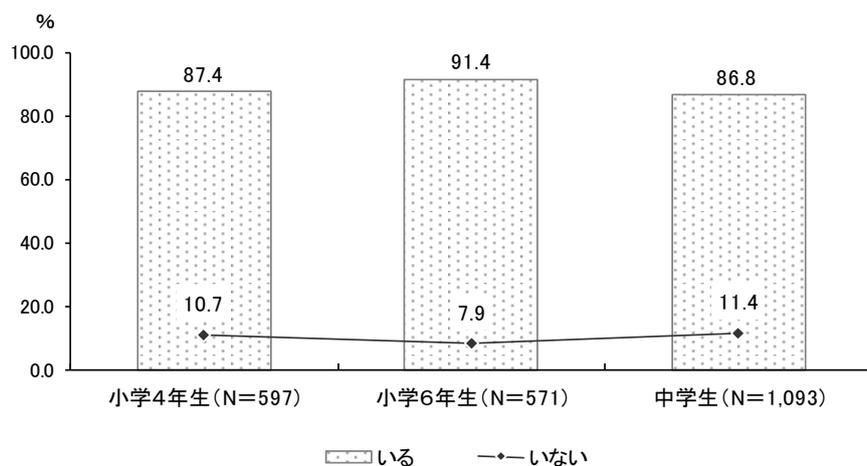


※複数回答のため、各回答割合（％）の合計は100%になりません。

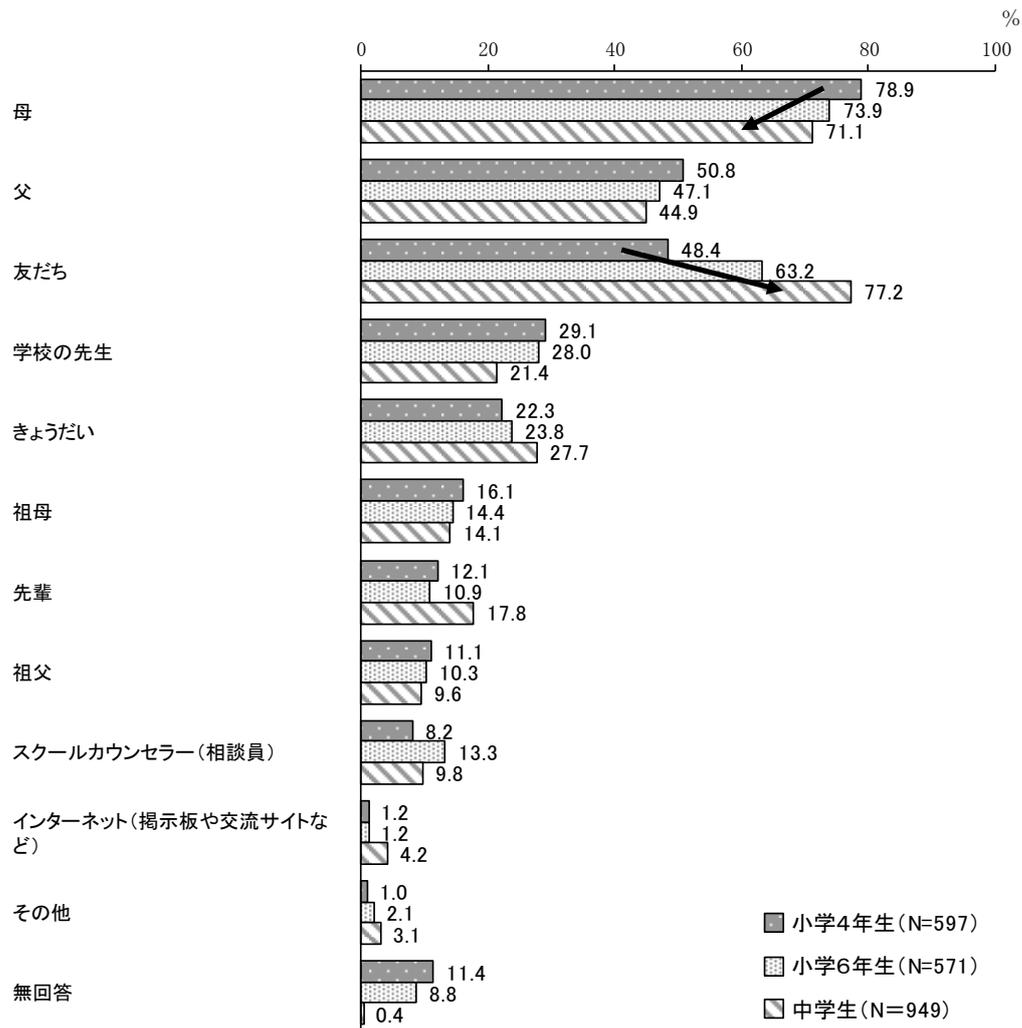
8 相談相手の有無、相談できる相手（小学生・中学生）

小学6年生では、いやなことやつらいことがあったときに相談できる人が「いる」割合は91.4%となっています。一方、中学生では相談できる人が「いる」割合は86.8%となっており、小学6年生よりもやや低い割合となっています。

相談相手としては「母」をあげる意見が多いが、学年が上がるにつれて「友だち」の割合が高くなっています。また、「インターネット（掲示板や交流サイト）」に相談するという小学生・中学生も、低い割合ですが存在しています。



【相談できる相手】

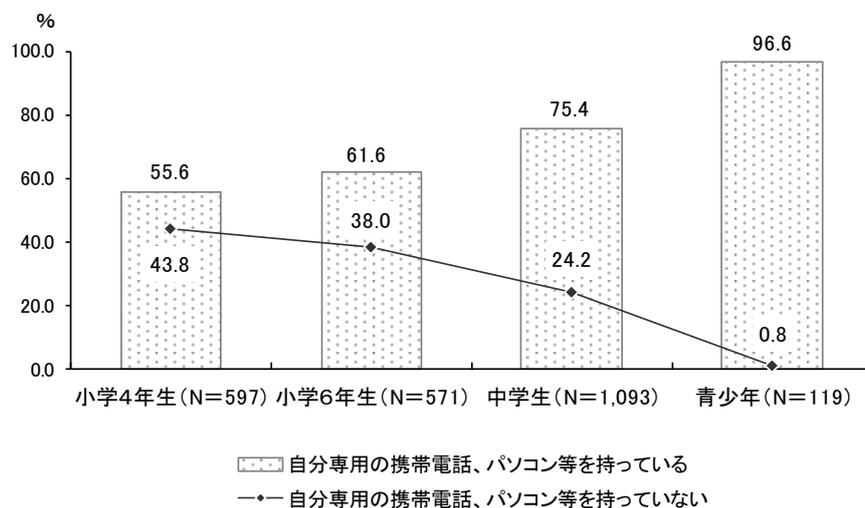


※複数回答のため、各回答割合 (%) の合計は100%になりません。

9 携帯電話やパソコンの利用状況（小学生・中学生・青少年[※]）

自分専用の携帯電話またはパソコン等を持っている割合は、小学生で6割前後、中学生では75.4%、青少年では96.6%となっています。

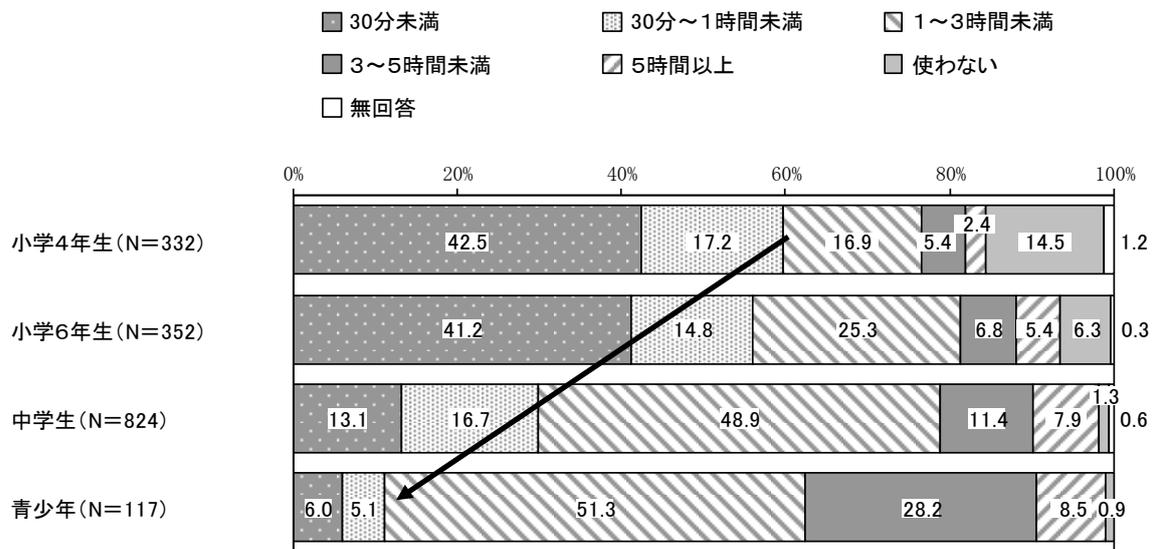
1日の使用時間は、平日よりも休日の方が長く、学年が上がるにつれて長くなっていく傾向にあります。



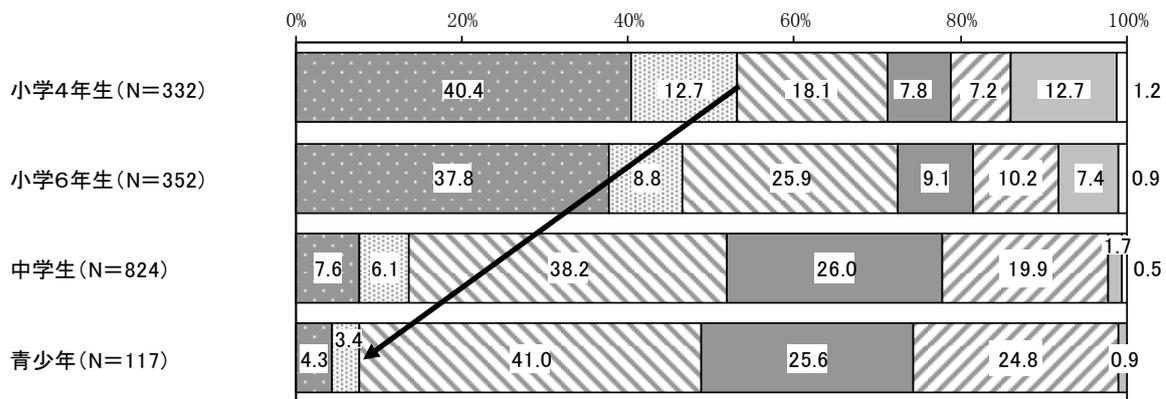
※青少年調査のうち、「高校生」、「短期大学生・高等専門学校生」、「専門学校生」、「大学生」からの回答を集計しました。

※青少年では、携帯電話とパソコンのそれぞれについて所持状況を聴取しています。ここでは、自分専用の携帯電話またはパソコンを所持している割合を示します。

【平日の使用時間】



【休日の使用時間】



※小・中学生の使用時間は、自分専用の携帯電話またはパソコン等を持っている者を対象に集計しました。

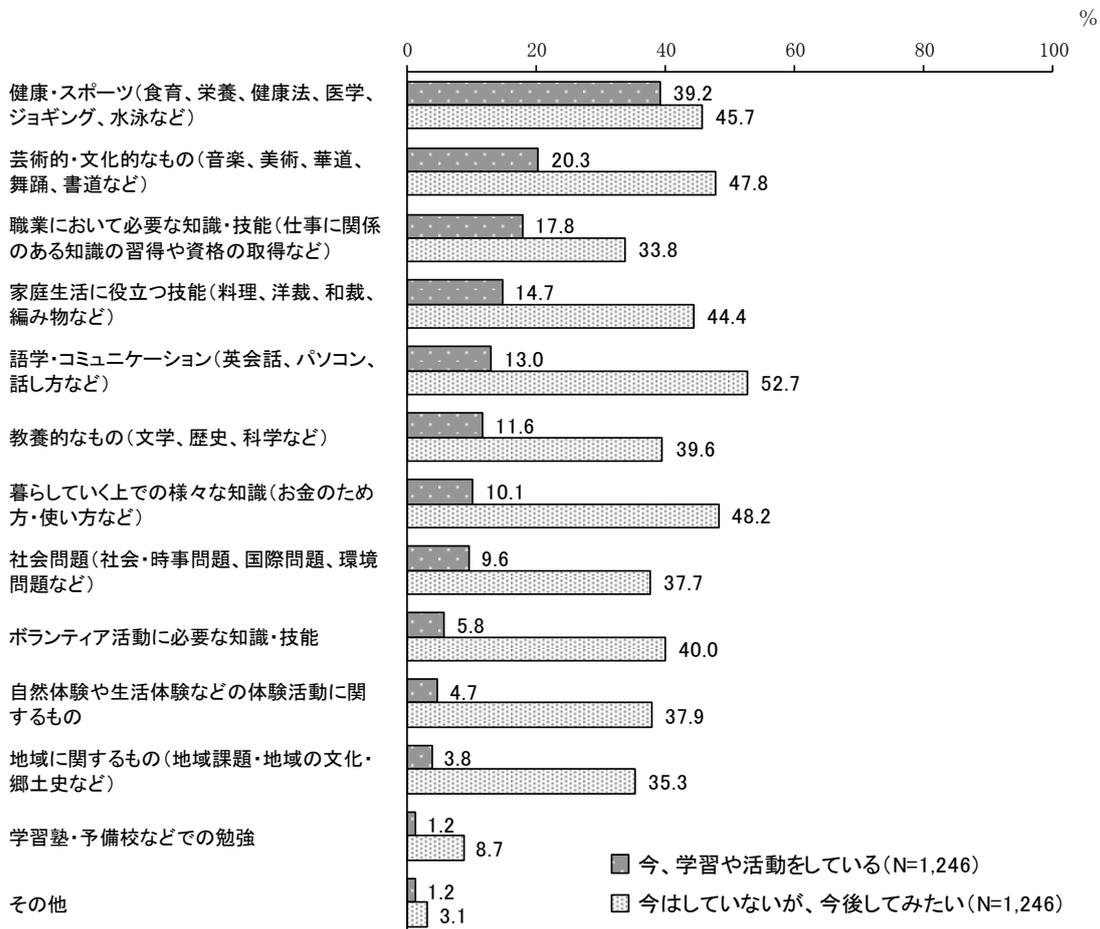
※青少年では、自分専用かどうかを問わず、携帯電話またはパソコン等を持っている者を対象に集計しました。

10 学習や活動の内容（一般市民・青少年）

現在している学習や活動の内容は、一般市民では「健康・スポーツ（食育、栄養、健康法、医学、ジョギング、水泳など）」や「芸術的・文化的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」が多く、青少年では「芸術的・文化的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」、「教養的なもの（文学、歴史、科学など）」、「健康・スポーツ（食育、栄養、健康法、医学、ジョギング、水泳など）」、「学習塾・予備校などでの勉強」が多くなっています。

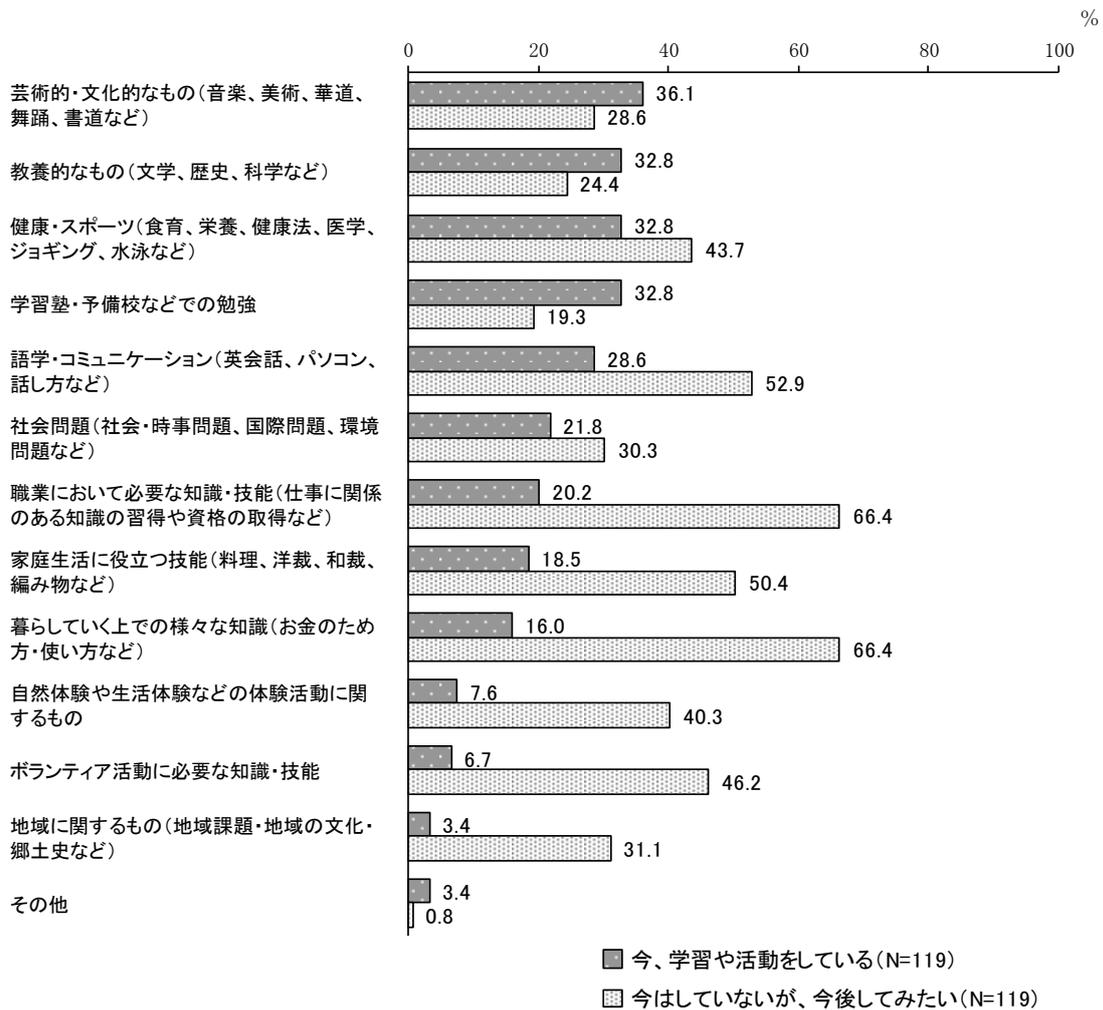
青少年は、今後してみたいものとして「職業において必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」、「暮らしていく上での様々な知識（お金のため方・使い方など）」、「語学・コミュニケーション（英会話、パソコン、話し方など）」や「家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）」を上位にあげており、今後社会に出て行く上で必要になると思われる内容を学びたいと考えていることがうかがえます。

【一般市民】



※複数回答のため、各回答割合（%）の合計は100%になりません。

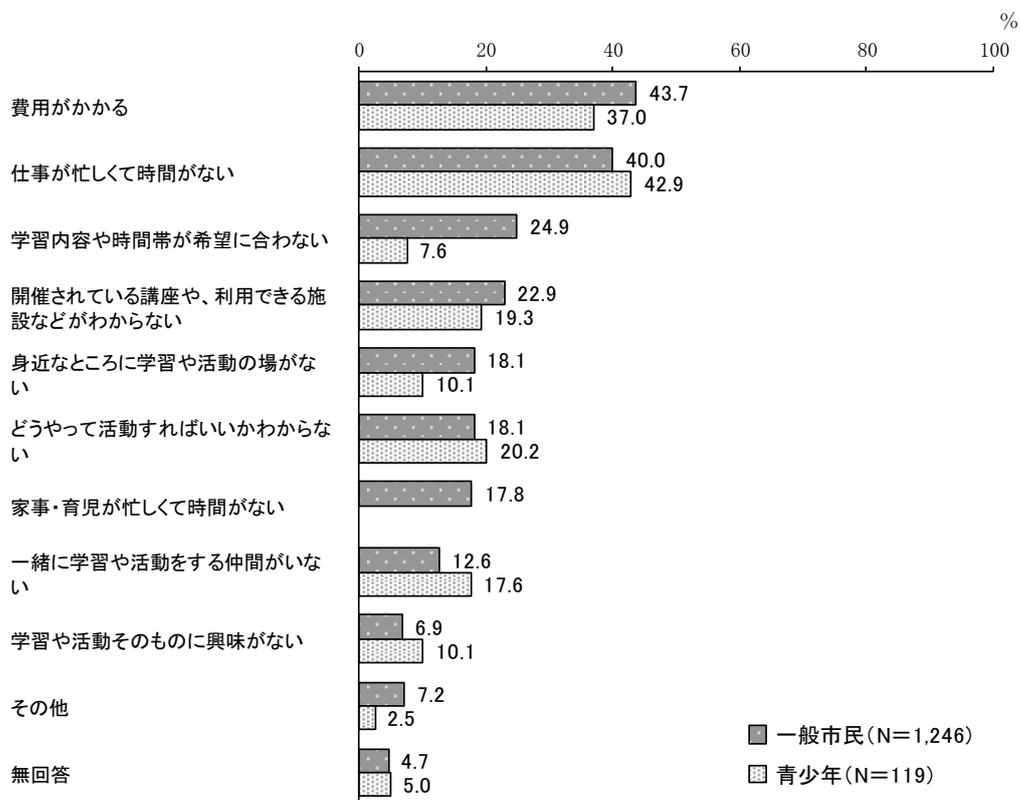
【青少年】



※複数回答のため、各回答割合 (%) の合計は 100% になりません。

11 生涯学習を行うにあたって困っている点（一般市民・青少年）

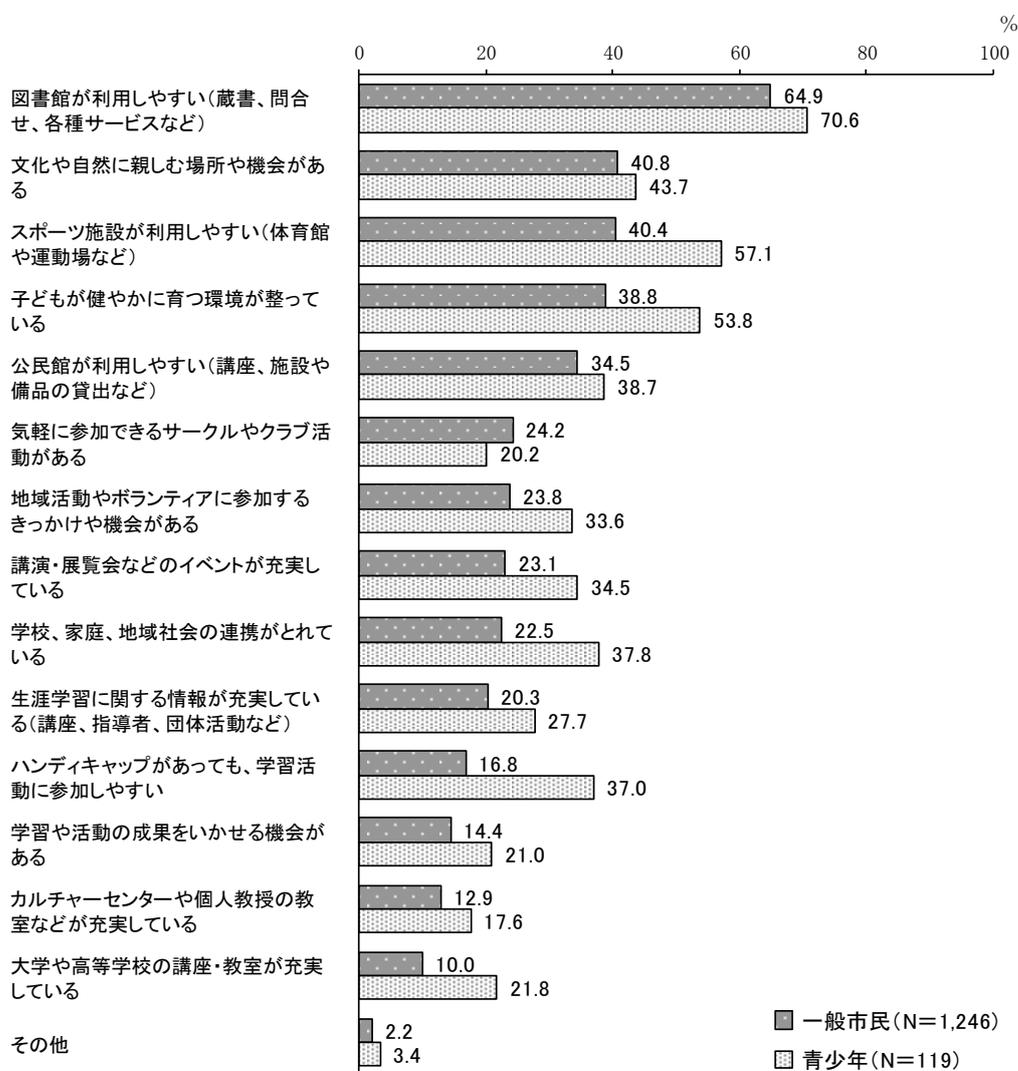
生涯学習を行うにあたって困っている点として多かったのは「費用がかかる」や「仕事が忙しくて時間がない」で、一般市民、青少年のそれぞれ約4割を占めています。



※複数回答のため、各回答割合（%）の合計は100%になりません。

12 西東京市の学習環境（一般市民・青少年）

西東京市の学習環境としては、「図書館が利用しやすい（蔵書、問合せ、各種サービスなど）」という意見が6割以上と最も多くなっています。次いで「文化や自然に親しむ場所や機会がある」、「スポーツ施設が利用しやすい（体育館や運動場など）」、「子どもが健やかに育つ環境が整っている」、「公民館が利用しやすい（講座、施設や備品の貸出など）」等となっています。

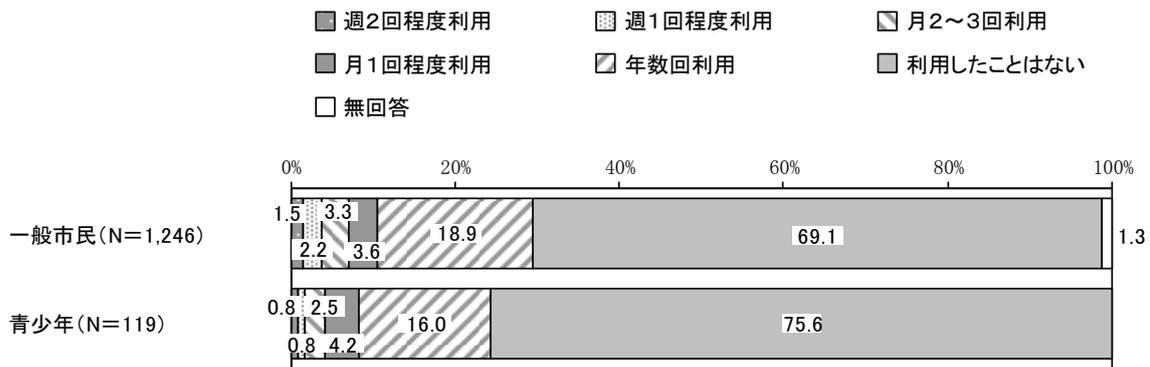


※複数回答のため、各回答割合（％）の合計は100%になりません。

13 公民館の利用状況（一般市民・青少年）

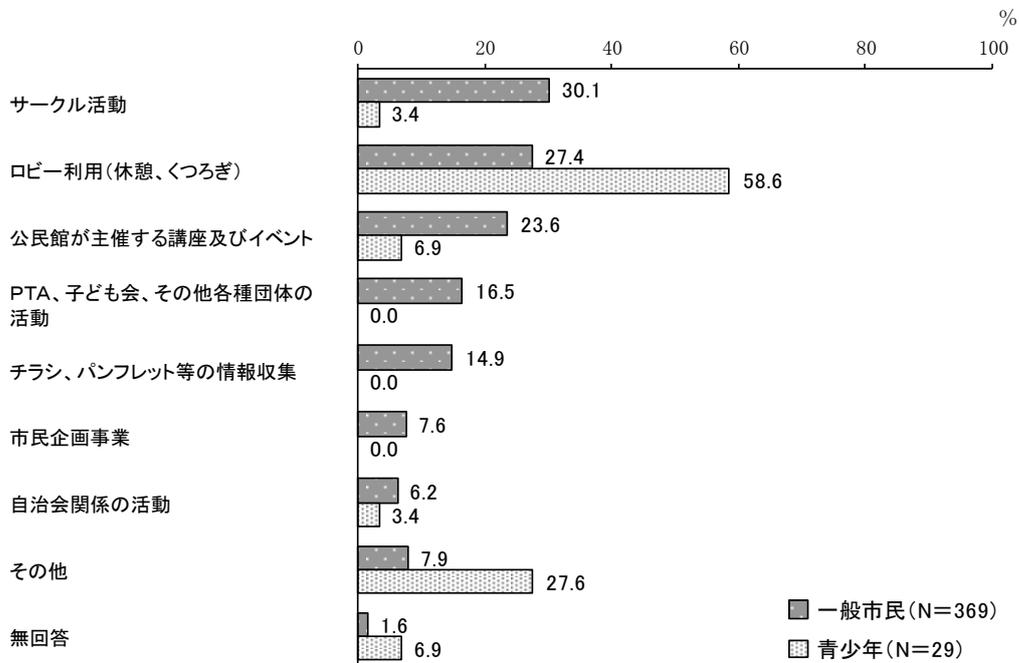
一般市民の 29.5%、青少年の 24.3%は、この1年間に公民館を利用したことがあると回答しています。

利用者の主な目的は「サークル活動」、「ロビー利用（休憩、くつろぎ）」等であり、未利用者が利用しない理由は「特に理由はない」のほかは、「利用する時間がないから」、「利用の仕方がわからないから」、「公民館で行っている事業等に興味がないから」の割合が高くなっています。



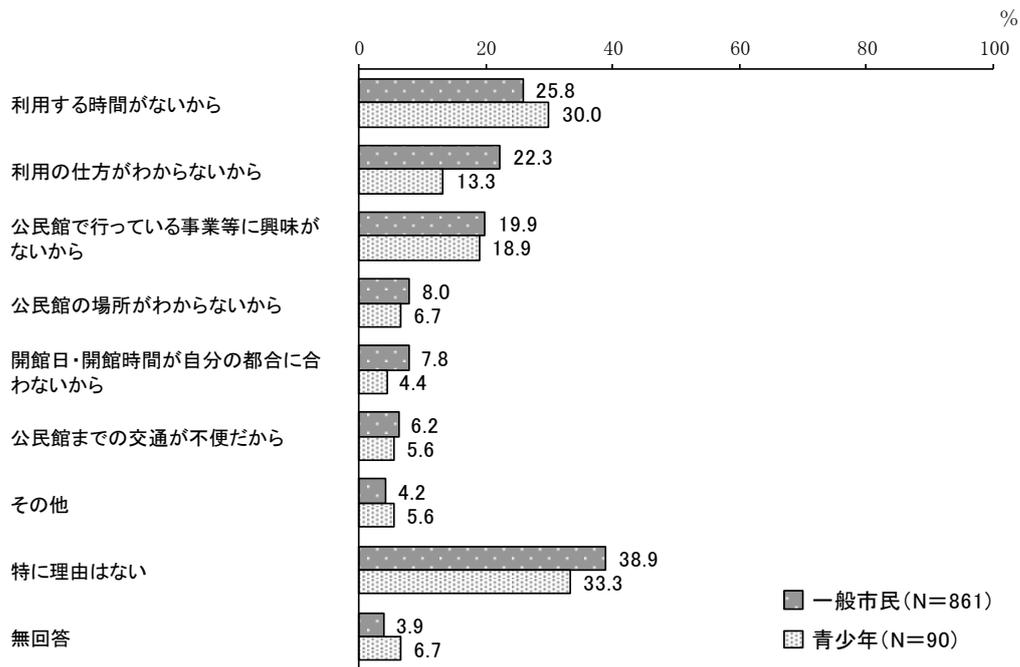
※「週2回以上利用」は、実際の調査では「ほぼ毎日利用」、「週4～5回利用」「週2～3回利用」として聴取。割合が低いため、まとめて表記しています。

【主な利用目的】



※複数回答のため、各回答割合（%）の合計は100%になりません。

【利用しない理由】

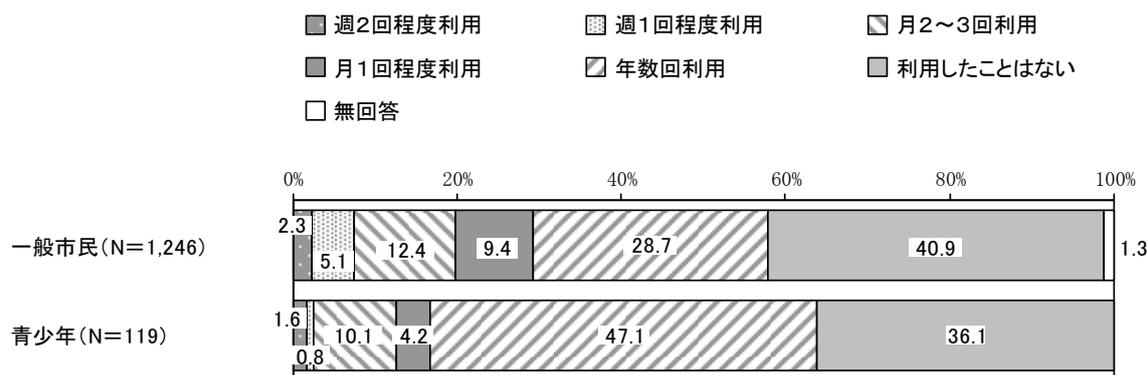


※複数回答のため、各回答割合 (%) の合計は 100% になりません。

14 図書館の利用状況（一般市民・青少年）

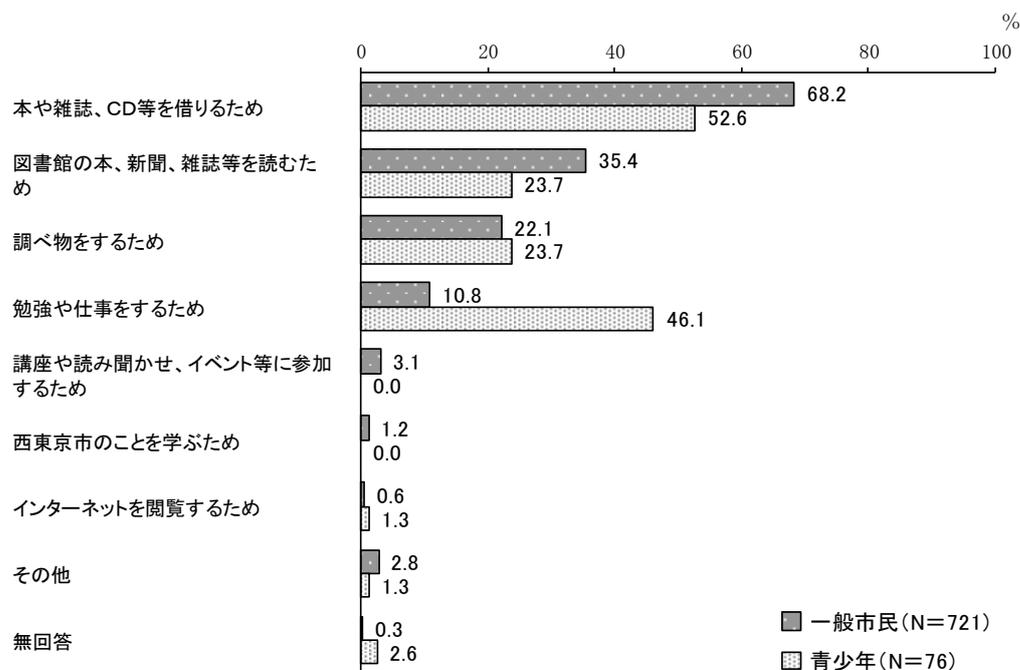
一般市民の 57.9%、青少年の 63.8%は、この 1 年間に図書館を利用したことがあると回答しています。

利用者の主な目的は「本や雑誌、CD等を借りるため」、「図書館の本、新聞、雑誌等を読むため」、「調べ物をするため」等のほか、青少年は「勉強や仕事をするため」と回答する割合が高くなっています。未利用者が利用しない理由は、「特に理由はない」のほかは、「本や雑誌は自分で買うようにしているから」、「利用する時間がないから」の割合が高くなっています。



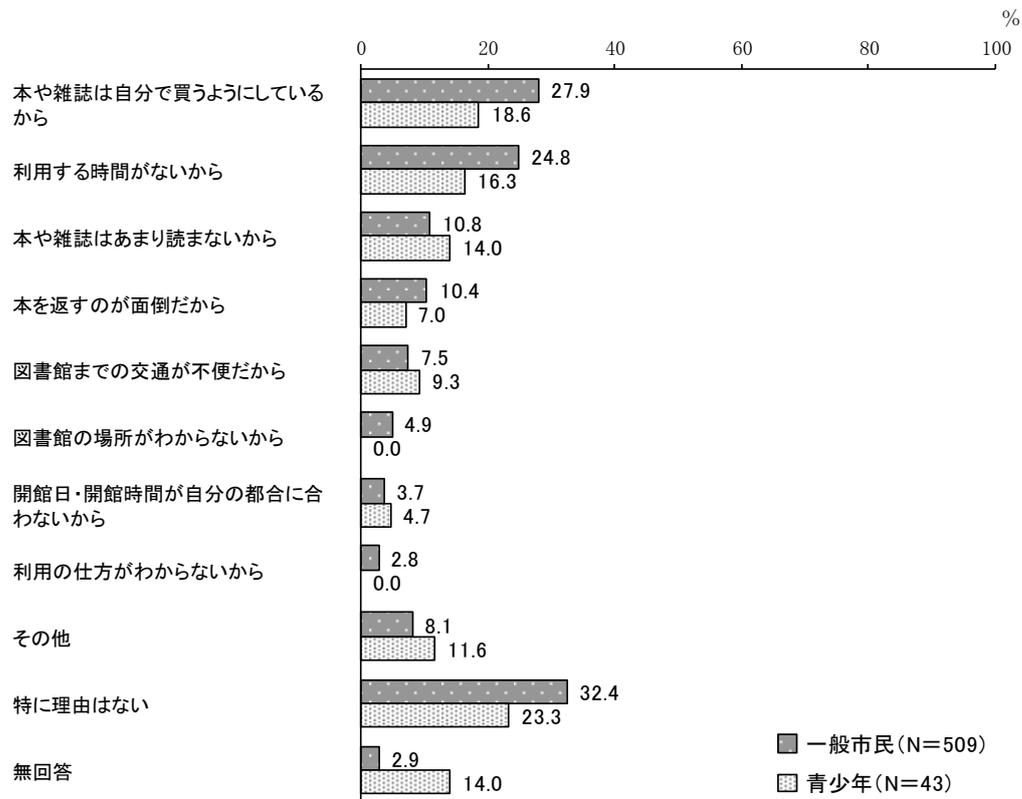
※「週2回以上利用」は、実際の調査では「ほぼ毎日利用」、「週4～5回利用」「週2～3回利用」として聴取。割合が低いため、まとめて表記しています。

【主な利用目的】



※複数回答のため、各回答割合（%）の合計は100%になりません。

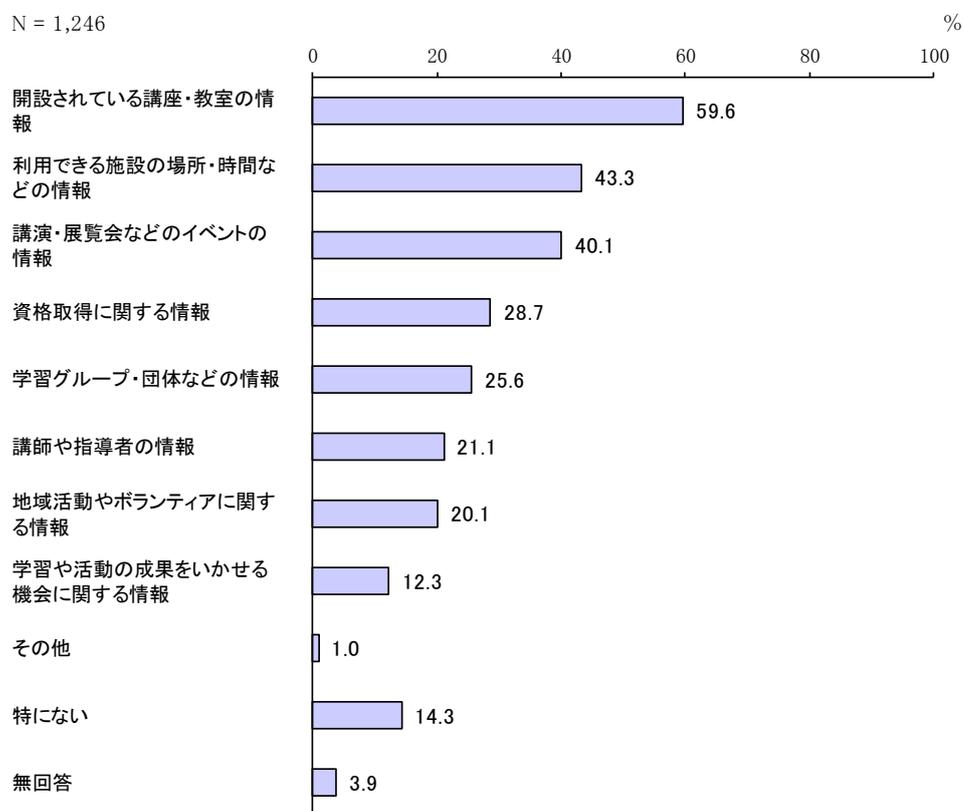
【利用しない理由】



※複数回答のため、各回答割合 (%) の合計は 100% になりません。

15 生涯学習に関して知りたい情報（一般市民）

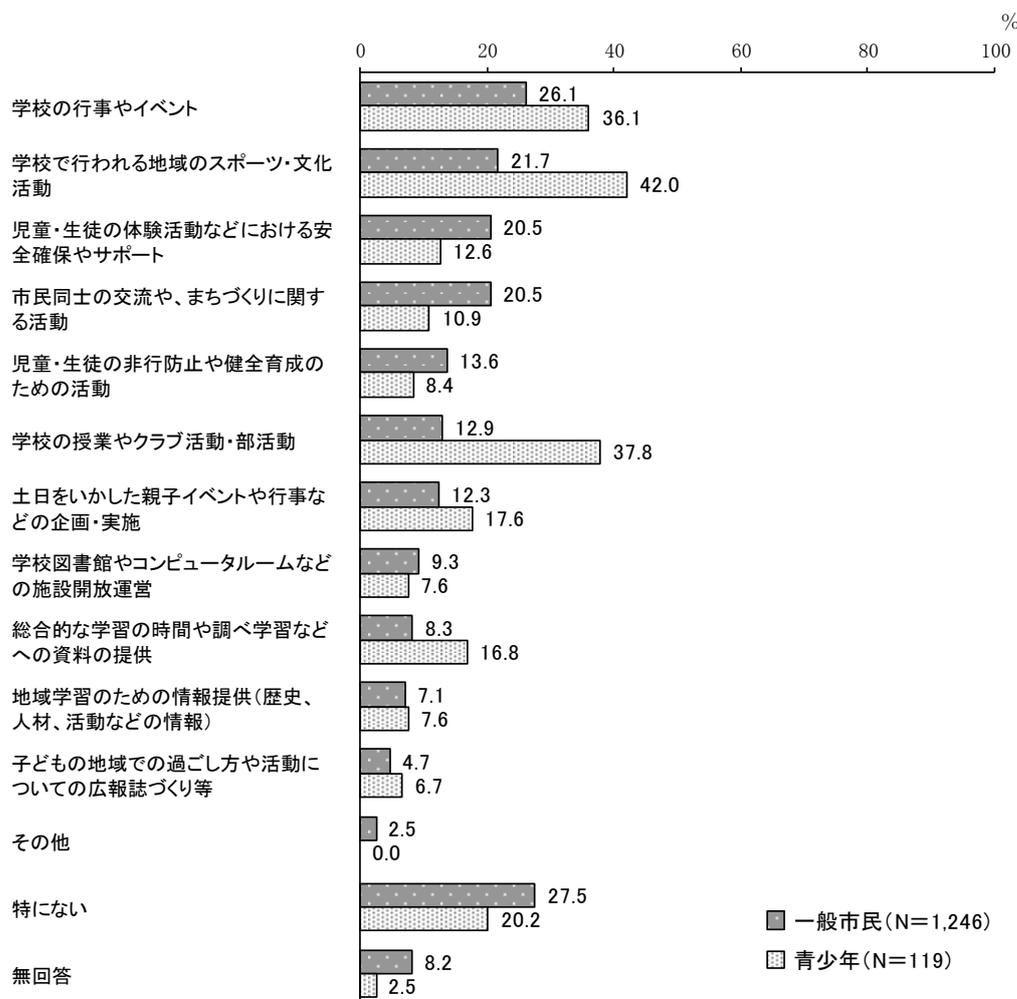
生涯学習に関して知りたいこととしては、「開設されている講座・教室の情報」、「利用できる施設の場所・時間などの情報」、「講演・展覧会などのイベントの情報」等があげられており、どこに行けば何を学ぶことができるのか、市民への周知が十分でないことがうかがえます。



※複数回答のため、各回答割合（%）の合計は100%になりません。

16 地域・社会活動への参加意向（一般市民・青少年）

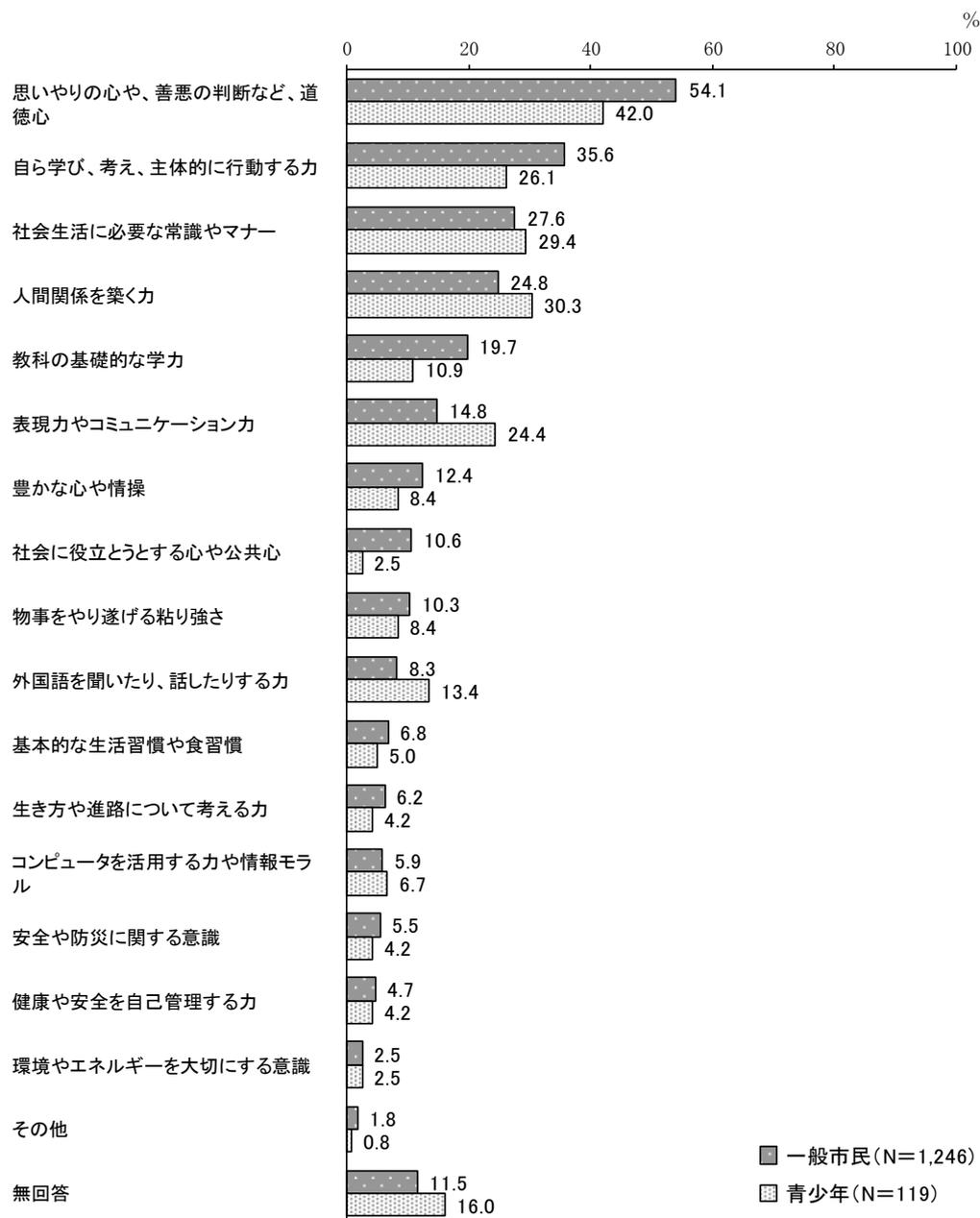
参加・協力してもよいと思う活動としては、一般市民では「学校の行事やイベント」、「学校で行われる地域のスポーツ・文化活動」等が上位にあげられています。青少年においては、「学校の行事やイベント」、「学校で行われる地域のスポーツ・文化活動」、「学校の授業やクラブ活動・部活動」等の学校に関わる活動への参加意向が高くなっています。



※複数回答のため、各回答割合 (%) の合計は 100% になりません。

17 小学校・中学校で教えることで重要なこと（一般市民・青少年）

小学校・中学校で教えることで重要なことは、一般市民では「思いやりの心や、善悪の判断など、道徳心」、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」、「社会生活に必要な常識やマナー」、「人間関係を築く力」等があげられています。青少年では、加えて「表現力やコミュニケーション力」等が重要であるという意見が多くなっています。

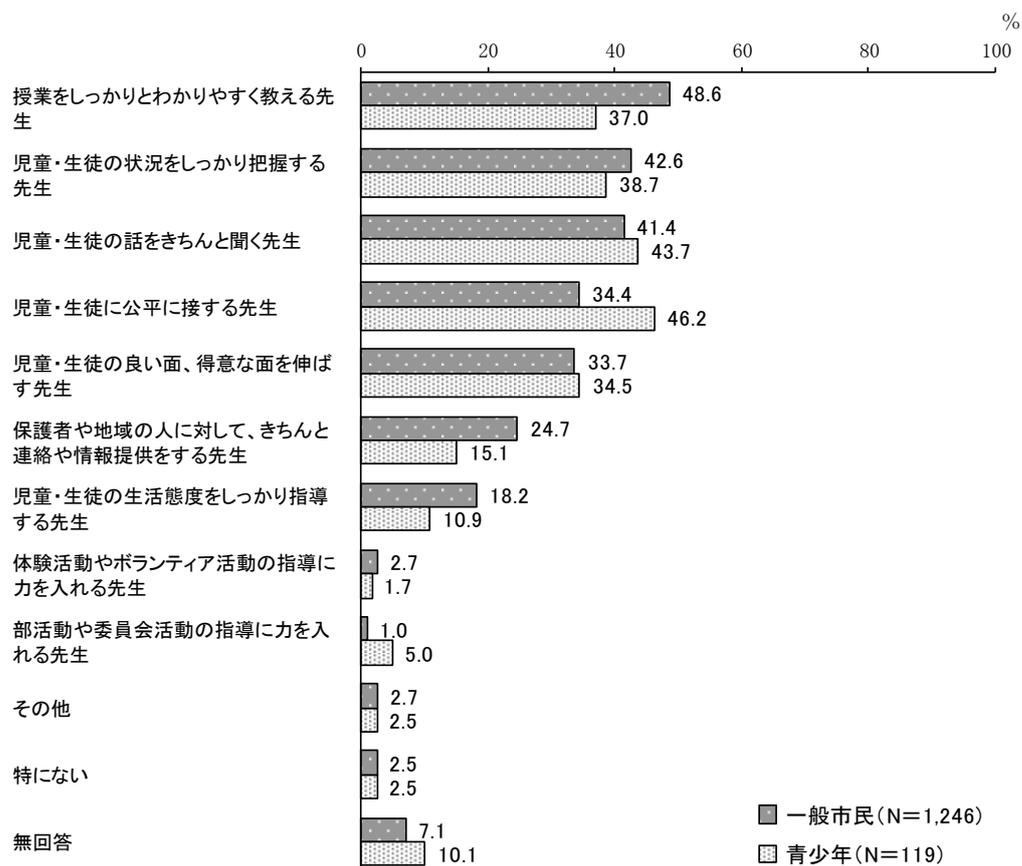


※複数回答のため、各回答割合（％）の合計は100%になりません。

18 望ましい小学校・中学校の教師像（一般市民・青少年）

望ましい小学校・中学校の教師像としては、一般市民では「授業をしっかりとわかりやすく教える先生」、「児童・生徒の状況をしっかりと把握する先生」、「児童・生徒の話をきちんと聞く先生」等があげられています。

一般市民に比べ、青少年は「児童・生徒に公平に接する先生」と回答する割合が高くなっています。

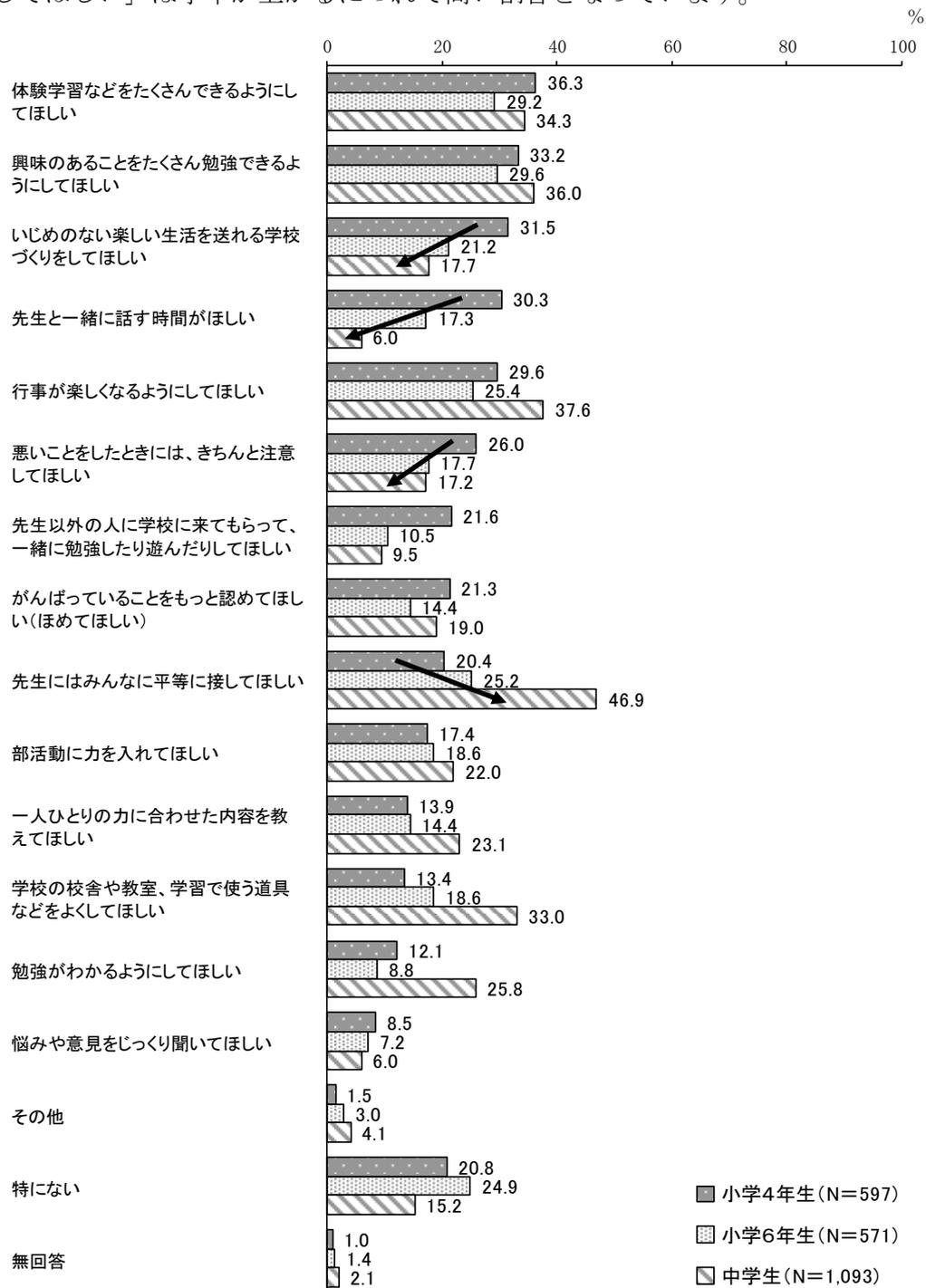


※複数回答のため、各回答割合（％）の合計は100%になりません。

19 学校や先生に望むこと（小学生・中学生）

学校や先生に望むこととしては、「体験学習などをたくさんできるようにしてほしい」、「興味のあることをたくさん勉強できるようにしてほしい」、「いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい」、「先生と一緒に話す時間がほしい」、「行事が楽しくなるようにしてほしい」等が上位にあげられています。

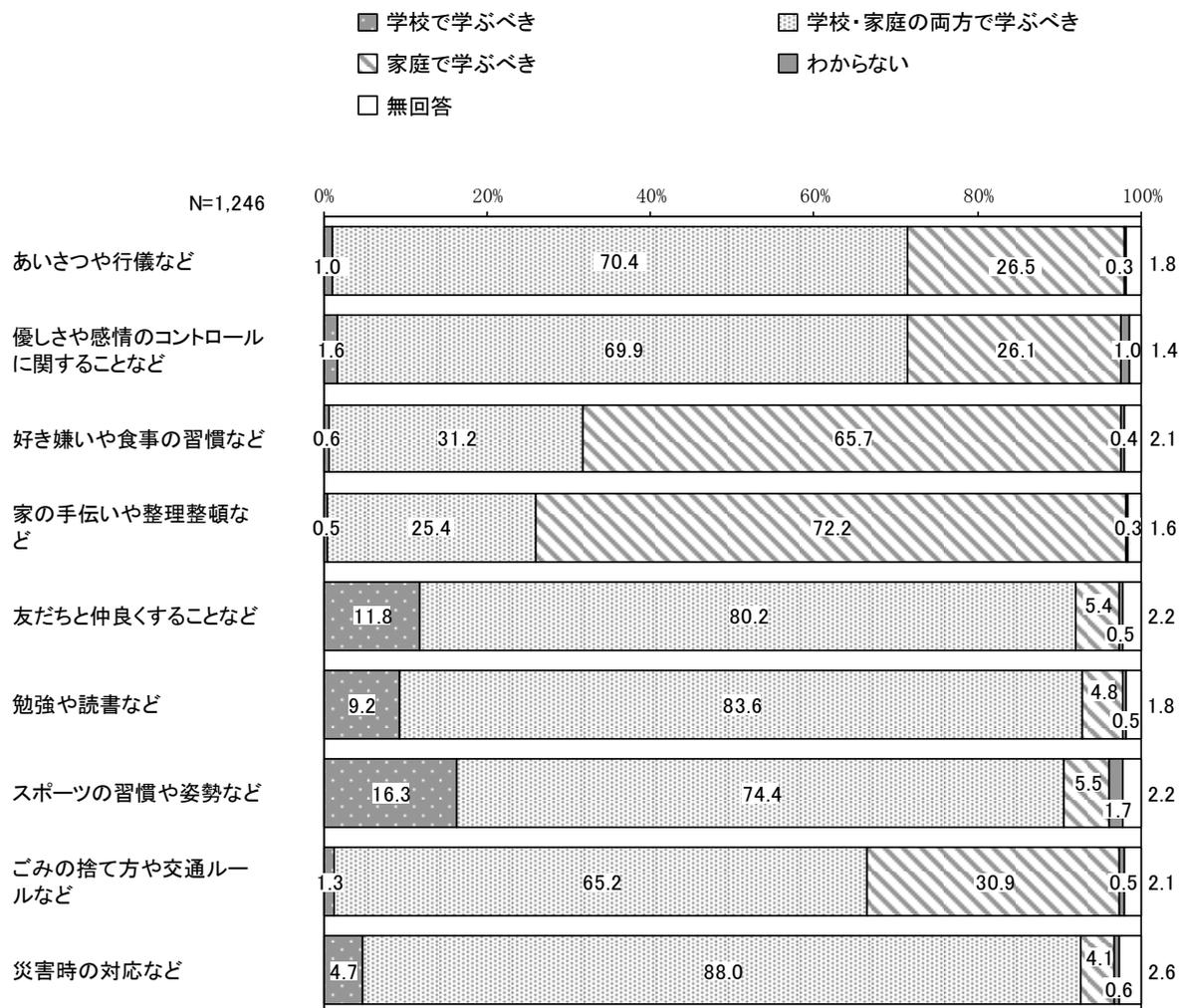
学年による違いを見ると、「いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい」、「先生と一緒に話す時間がほしい」、「悪いことをしたときには、きちんと注意してほしい」は小学4年生で最も高く、学年が上がるにつれて割合が低くなっています。一方、「先生にはみんなに平等に接してほしい」は学年が上がるにつれて高い割合となっています。



※複数回答のため、各回答割合 (%) の合計は 100% になりません。

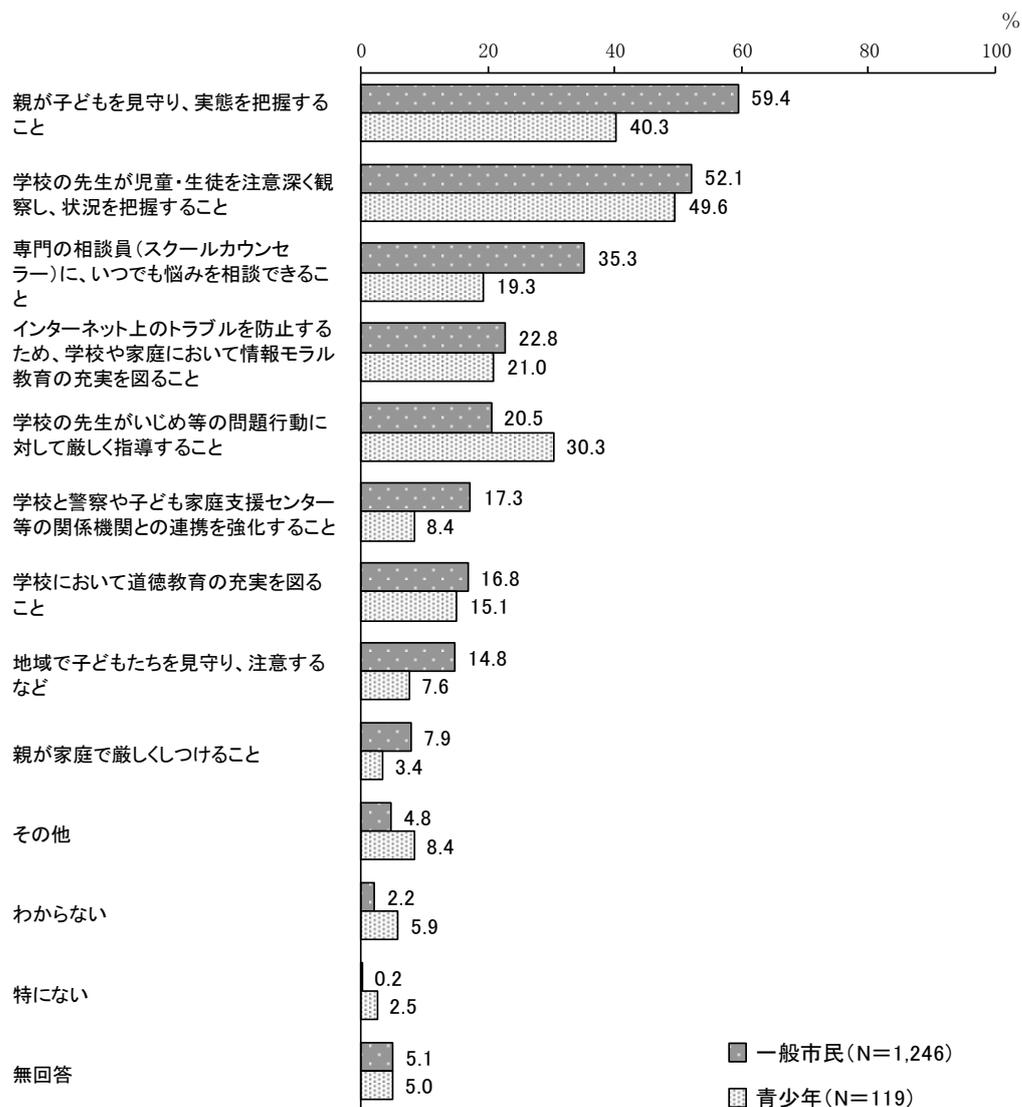
20 学校と家庭の役割（一般市民）

「好き嫌いや食事の習慣など」、「家の手伝いや整理整頓など」は、家庭で学ぶべきであるという意見が多く、「友だちと仲良くすることなど」、「スポーツの習慣や姿勢など」は、学校で学ぶべきであるという意見が多くなっています。



21 いじめや不登校防止のために必要な対策（一般市民・青少年）

いじめや不登校防止のために必要なこととして、一般市民は「親が子どもを見守り、実態を把握すること」と回答する割合が最も高くなっています。一方、青少年は「学校の先生が児童・生徒を注意深く観察し、状況を把握すること」、「学校の先生がいじめ等の問題行動に対して厳しく指導すること」と回答する割合が高く、学校内で教員が対策にあたることが重要だととらえています。



※複数回答のため、各回答割合（%）の合計は100%になりません。

西東京市教育計画策定のためのアンケート調査報告書
(概要版)

発行日 平成 30 年 3 月

発 行 西東京市教育委員会 教育部教育企画課
西東京市中町一丁目 5 番 1 号 (保谷庁舎)

電 話 042(438)4070 (直通)